令和５年度 加古川市青少年問題協議会　会議録

開催日時	令和５年７月７日（金）　午後１時 30 分から午後３時 30 分まで
開催場所	加古川市民会館　小ホール
出 席 者	＜委員＞ 立花 俊治、中山 俊明、小南 克己、後藤 強、伊藤 淳、中尾 裕彦、嶋 基伸、 竹中 重夫、兼子 圓昌、 松浦 博之、岡本 正幸、旗手 信秀、浜田 時子、 柳谷 佐代子、田中 彦矢、中山 慎一、六田 翔、原 志津 ＜幹事＞ 桐山 朋宏、杉本 達之、松尾 光隆、今津 幸央、梅野 明美、真鍋 裕美、藤尾 昌也、 中村 浩康、福浦 正浩、富岡 頼史、谷川 陽一、田中 康夫、工藤 順也、笠原 久義、 脇本 真吾（代理　荻内善雄） ＜事務局＞ 伊藤 良介、中塔 貴志、池澤 幸子、尾城 征子
会議次第	１　委嘱状、任命通知交付、市長あいさつ ２　開会 　会長あいさつ ３　全体会議 （１）令和５年度報告事項（令和４年度基調提案の報告） 　「加古川市の児童生徒のインターネット等の利用実態と課題について」 （２）協議事項 　① 加古川市青少年健全育成基本方針（案）について 　② 青少年健全育成重点施策の概要（案）について 　③ 青少年健全育成に関わる組織図について 　④ 青少年健全育成に関する各所管担当事業について （３）令和５年度基調提案 　「子ども達の教育機会の確保と社会的自立を目指した不登校児童生徒支援対策について」 ４　講演 　「不登校対策におけるスクールソーシャルワーカーの役割について」 ５　閉会 　副会長あいさつ
配付資料	１ 令和５年度古川市青少年問題協議会次第 ２ 令和５年度加古川市青少年問題協議会議案（報告事項資料含む） ３ 基調提案資料≪資料≫
傍 聴 者	０名

会議要旨（発言者、発言内容、審議経過等）	
（市　長）	**１　委嘱状、任命通知交付** 　市長あいさつ
（会　長）	**２　開会** 　会長あいさつ **３　全体会議** **（１）令和５年度報告事項（令和４年度基調提案の報告）**
（少年愛護セン	令和４年度基調提案を受けて、「加古川市の児童生徒のインターネット等の利用

ター所長）	実態と課題について」の報告を行った。（議案 10～12 ページ） 【要旨】 　まず、児童生徒の利用実態について、昨年度、市内の小学校 5 年生から中学校 3 年生までのすべての児童生徒とその保護者を対象にケータイ・スマホ等の利用に係るアンケート調査を実施した。インターネット機器の所持率については、5、6 年生のうち 4 割から 5 割の児童が所持し、中学校入学を機にスマートフォンを所持する子どもが多くなっている。また、家庭内でのインターネット機器の利用内容は、動画視聴が小中学校共通して 7 割を超えている。小学生の約半数は通信ゲームをしており、ゲーム内で知り合った同学年や年上の人と実際に会った小学生もいる。中学生になると SNS の利用が増加し、顔見知り同士がグループラインやインスタグラム等で繋がる傾向が強く、他人の個人情報の投稿や誹謗中傷、グループ外し等のいじめや生徒間トラブルが起きやすい状況となっている。 　次に少年愛護センターでは、専門機関と連携し、児童生徒がインターネット上に掲載する SOS、不適切な書き込み、動画の投稿等を早期に発見し、児童生徒に適切な指導を行うと共に犯罪やトラブルに巻き込まれないようにネットパトロール事業を実施している。令和 4 年度は専門機関から年間 3,323 件の情報があり、そのうち 19 件について各学校に対応依頼を行い、関係児童生徒への指導等適切に対応した。対応依頼の主な内容は自分自身または他人の個人が特定できるような顔写真、制服等の画像や氏名、学校名等の投稿、危険遊戯による注意引き行動、他人への誹謗中傷等である。 　また、インターネットなどの利用による問題行動の実態については、各学校から報告される問題行動のうち約 1 割がインターネットに関するものである。主な傾向は次の 4 つである。①インターネットやゲーム依存傾向と家庭内ルールが守れない②インターネットやゲームへの高額課金③インターネット上のいじめや他者への誹謗中傷などの生徒間トラブル④動画や画像を他者の許可を得ず撮り、スマートフォンに保存またはインターネット上に投稿する。これらの事案の内容や拡散の状況によっては、早い段階で警察等関係機関と連携することがある。 　続いて令和 4 年度の取組状況について、情報モラル教室をすべての小中学校で実施した。4 割の小中学校では保護者も参加できるように対応している。問題事案の大半は家庭生活の中で起こっていることから保護者に現状を知ってもらい、フィルタリングの設定等、継続したペアレンタルコントロールがされるためにも保護者が参加できる情報モラル教室の実施が重要である。そのためにアンケート結果の配付やホームページへの掲載、地区懇談会や校区青少年育成連絡協議会においてインターネットに係る問題行動や危険性、見守り方等について講演を行った。 　最後に今後の取組みとして、情報モラル教室や啓発活動、ネットパトロール事業等を継続しながら、家庭、学校、地域や関係機関等と更なる共通認識と連携を図っていく。少年愛護センターは家庭、学校、地域の方にとって、困ったときに相談できる窓口としてその機能を十分に発揮し必要に応じて関係機関と連携しながら青少年の健全育成を目標に児童生徒を支援する活動を行っていく。 ＜質問、意見等なし＞ **（２）協議事項** **①　令和５年度加古川市青少年健全育成基本方針（案）について** **②　青少年健全育成重点施策の概要（案）について** **③　青少年健全育成に関わる組織図について**

（幹　事）	令和５年度加古川市青少年健全育成基本方針（案）、青少年健全育成重点施策の概要（案）、青少年健全育成に関わる組織図について説明し、意見を求めた。（議案 13～16 ページのとおり） ＜質問、意見等なく、承認＞
（各幹事）	**④　令和５年度青少年健全育成に関する各所管担当事業について** 青少年健全育成に関する各所管担当事業について各幹事より説明し、意見を求めた。　（議案 17～21 ページのとおり） ＜質疑応答＞
（委　員）	こども政策課の説明について、令和５年度の待機児童（保育園等を利用したくても利用できない児童）の具体的な数字を教えてほしい。
（幹　事）	令和５年４月１日現在で 15 名発生している。
（委　員）	インターネット上のいじめ不登校の人数を教えてほしい。インターネット上の削除指導だが、重大事案になるような投稿は、拡散されないように削除が必要だと思われるが、ネットパトロールで削除できる権限はあるのか。また、実際に削除するまでどれぐらいの日数がかかるのか教えてほしい。
（教育相談センター所長）	インターネット等のトラブルから不登校になった事案はそんなに多くはない。そのトラブルが起こった直後１日、２日休むようなケースで長期間休む不登校に繋がったということは少なかったと思う。また、ネットパトロールで発見された事案について、削除できるかということだが、その権限は持っていない。ネットパトロールでは、自分自身の顔がわかったり、少しやり過ぎの投稿が発見されたときに、その都度学校に伝え、指導するという現状である。
（教育相談センター所長）	**（３）令和５年度基調提案** 「子ども達の教育機会の確保と社会的自立を目指した不登校児童生徒支援対策について」の資料に基づき提案を行った。（議案書 22～23 ページ） 【要旨】 １　不登校児童生徒数の推移について ・令和４年度の不登校児童生徒数と不登校率は小学校 236 人（1.75%）、中学校 453 人（6.50%）で小学校、中学校共に増加している。 ・不登校の要因としては、無気力、不安、生活リズムの乱れ、友人関係の問題、学業の問題、親子関係等である。 ２　令和４年度の本市の不登校児童生徒の状況について ・長期欠席者（１年間で 30 日以上欠席）は 1,122 人（病気等含む）で、そのうち不登校児童生徒数 689 人、不登校以外の理由で欠席している人数（病気、チャーチスクール利用等）433 人である。 ・不登校児童生徒 689 人のうち、教育相談センター内のわかば教室を利用している児童生徒が 91 人、フリースクール等利用している児童生徒が 19 人いる。また市内 12 中学校と３小学校に教室以外の居場所とした別室を設置しており、この別室を

	利用している児童生徒が約 263 人いる。このことから、教育の機会を確保することと、社会的自立への支援を目指すうえで、多様な学びへの支援が必要と考える。 ３ 令和５年度の本市の不登校対策について ・４つの柱で考えている。 ①児童生徒の実態把握 ②児童生徒及び保護者支援 ③教員の資質向上 ④地域・保護者との連携 ４ 令和５年度の主な不登校対策について ・不登校児童生徒の増加に伴い、サテライト教室として、体験活動型わかば教室や学習支援型わかば教室を展開している。 ５ 令和６年度の不登校対策の展開について ・市役所北館の改修後は、より個に応じた支援が図れるようにわかば教室の工夫を予定している。 ・小学校のメンタルサポーターの配置について、計画的に拡充していきたいと考えている。 今後も様々な支援を活用しながら、支援を求める多くの子どもたちのニーズに応え、子どもたちの学ぶ機会の確保と社会的自立を目指して取り組んでいく。 ＜質疑応答＞
（委　員）	不登校以外の理由（病気・経済的理由）で、病気と経済的理由の内訳の数字はわかるのか。
（教育相談センター所長）	経済的理由で欠席している児童生徒はいない。病気で休んでいる児童生徒は約 300 人程度だと思う。ただ、この中には、コロナの心配があったり、事故で欠席という児童生徒も含まれている。
（委　員）	今までは不登校率が県の平均よりも下だったが、上回った原因はどのように分析しているか。
（教育相談センター所長）	不登校人数が中学校の場合、県や全国よりも増えている。体調不良というものが、病欠と捉えられてしまうことが多々あった。しかし、そうではなくて、体調不良だけでもその奥に何かしら学校に行きづらい理由があるのかもしれないと、積極的に不登校とみなしたうえで支援するという現状もある。丁寧に見ていこうとする表れだと感じている。 **○　意見交換**
（委　員）	大学でスクールソーシャルワーカーのカリキュラムを始めることになった。学生たちも児童分野の社会福祉、ソーシャルワークを目指す学生がとても増えている。実習でお世話になると思うがよろしくお願いしたい。

（委　員）	小学校中学校の不登校の主な要因はなかなか難しいところだと思う。文部科学省が不登校の原因をかなり調べているが、文部科学省が調べた要因と実際に子どもたちの立場に立って聞いた要因を比較してみると全然違う。今年行われた講演会の中では、学校にもかなり要因があるということだ。色々な要因があると思うが、学校自体にもその要因があるということは学校現場の先生方には認識していただけたらという気がする。実際に、学校の規則とか担任の先生の一言、そういうことがきっかけになっているという事実があることは知っておいていただきたい。
（委　員）	10 年ほど前にＰＴＡの役員をしていた。スマートフォンの所持率が当時と比べて相当増えている。当時はまだ持たせるか持たせないかというような状況で、今日の資料を見ると中学校１年生を機に持たせるようになっている。今ここまで数が増えてくるとどのようにして子どもたちを守っていくかという中でいろんな課題があると思う。組織がたくさんあって、役所の方々も色々な方が関わってくださっているので少し安心する面もある。子どもたちは親がしっかり面倒を見て、地域のみなさんで育てていくというのが基本だと思うので、みなさんで見守っていい加古川の街を作っていきたいと思う。
（委　員）	これからを背負っていく子どもたちには、正しく人権というものを理解したうえで育っていってもらわないといけないが、そのためには私たち大人が正しく理解して子どもたちと歩調を合わせないといけない。子どもたちと一緒にというのは言葉では理解しても、進めていくことは非常に難しいが、何らかのアクションを起こしながら今後につなげていきたい。
（委　員）	今日の資料を見て、不登校の要因として無気力、不安、生活リズムの乱れが、小学校 63%、中学校 67%ぐらいある。小学校中学校が連携して、この要因を抱えた子どもたちを助ける具体的な施策が必要だと思う。
（委　員）	子どもに対して、インターネット機器の管理を 100%することは難しいし、家庭によっては、無関心ということもある。その結果、インターネットの問題行動、生活リズムの乱れ、不登校に繋がっているのかなと感じる。保護者の子どもに対する関心とこの行動によってどうなるかということを保護者がしっかり認識する必要があると感じた。
（委　員）	青少年問題協議会ということで、色々な問題があって今回は不登校という課題が出てきている。これだけの組織があるので、子どもたちの裏にある原因を探りながら、連携を図っていくことが大事だと思う。
（播磨東教育事務所　学校問題サポートチーム　スクールソーシャルワーカー）	**４　講演** 「不登校対策におけるスクールソーシャルワーカーの役割等について」をテーマに講演を行った。（議案書 24 ページ） 【要旨】 《事例提起》 ６月に他市から転校してきた一人の子どもについて ・数日しか登校していない。 ・欠席連絡はあるときとないときがある。 ・家庭訪問をしても出てくるときと出てこないときがある。

	・以前の学校からほとんど学校に来なかったと聞いている。 原因はわからないが、不登校だということはわかっている。これだけの情報から、この子どもにはどのような背景があるのか考える。 《意見》 ・学校には数日登校しているので、この数日の間に学校で何か嫌なことがあったのではないか。 ・兄弟がたくさんいて面倒をみなければならない、ヤングケアラーではないか。 ・家庭環境の情報を集める必要がある。 ・以前の学校からもっと情報をもらえばよい。 ・離婚をして母親が一人で育てていて、仕事で夜遅く、母親も子どもも朝起きられないのではないか。 《解説》 ・不登校の児童生徒の背景として、成長の不安、いじめ、成績不振、進路、体調不良、人間関係、家族、家庭環境、虐待、ヤングケアラー等色々な要因がある。先ほど、たくさんの意見が出てきたように、この中の一つの要因で不登校になったのではなく、色々な要因が絡み合って不登校が起きていると考えてほしい。一人一人抱えている悩みは違うし家庭環境も違う。不登校支援に関わるときには一人一人の声に耳を傾けてほしい。今日はたくさんの関係機関の方が来られているが、子どもの背景について考えて、どんな支援ができるかということを学校と一緒に考えてほしい。学校も関係機関に支援をお願いするときは、今までの経過や保護者との関わり等を丁寧に伝えて連携してほしい。関係機関に渡したから終わりではなく、学校が出来ることは何かと一緒に考えてほしい。 《まとめ》 ・子どもを取り巻く背景はたくさんあるので、不登校の原因を一つに特定することはできない。だから子どもたち一人一人の声に耳を傾けて、みんなで考えて支援してほしい。子どもたちが自分でやりたいことを、自分に合った方法で、今日ここに来られているみなさんの支援の中で見つけていくことが出来ればいいと思う。 **５　閉会** 副会長あいさつ
（副会長）	